

来週の市場とレート予想

	6/5(月)	6/6(火)	6/7(水)	6/8(木)	6/9(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 1,200	ト ン	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	+ 3,300	+ 2,000	+ 1,000	ト ン	+ 2,000
資金需給	+ 4,500	+ 2,000	+ 1,000	ト ン	+ 1,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M)				交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,800 CP等買入 △ 900 成長基盤強化 △ 100 国債補充供給 + 100				
オペスタート	共通担保(全店) + 2,000	国債買入 + 11,300 短国買入 + 5,000			
(日本)		毎月勤労統計(4月)	景気動向指数(4月)	GDP(1-3月期改定値) 国際収支(4月) 貸出・預金動向(5月)	マネーストック(5月)
(海外)	米 労働生産性(1-3月、確定値) 米 ISM非製造業景況指数(5月) 米 労働市場情勢指数(5月) 米 製造業受注(4月)	米 求人数(4月) 欧 ユーロ圏総合PMI(5月、改定値) 欧 ユーロ圏サービス業PMI (5月、改定値) 欧 ユーロ圏小売売上高(4月) 仏 OECDフォーラム (パリ、7日まで)	米 消費者信用残高(4月) 欧 ユーロ圏GDP(1-3月、確定値) 仏 OECD、2017年の 世界経済見通し発表	米 週間新規失業保険申請件数 (3日終了週) 欧 ECB金融政策決定 ドラギ総裁が記者会見 英 総選挙	米 卸売在庫(4月)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、349兆8,500億円から始まった。その後、5月30日には短国・国債買入を主因に増加し351兆5,200億円となった。2日は普通交付税の払いがある一方、大幅な法人税揚げにより前日比3兆5,100億円減少の346兆9,000億円を越えた。無担保コールON物は、週初から5月30日にかけては△0.06%を挟んだ落ち着いた地合いで推移した。31日は月末越えの調達を控える動きからビッドが薄くなり、加重平均金利は△0.065%まで低下したが、1日は月末以前の水準まで戻す展開となった。2日は週末の積需要を背景に、出合のレンジは若干上昇した。同日の加重平均金利(速報)は△0.059%となった。ターム物は期内物を中心に△0.04~△0.03%台のレンジで出合が見られた。日銀が2日に公表した営業毎旬報告によると、5月31日時点の日銀の総資産が初めて500兆円を超えた。来週は、1-3月期GDP改定値(8日)、海外では、ECB金融政策決定(8日)、イギリス総選挙(8日)などが予定されている。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	マイナス ~ 0.001
TDB 3M	△0.100 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆2,500億円で、週間償還額の約1兆2,000億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。29日は、月末スタートの発行に当たったことから、大型案件や幅広い業態での発行が見られ活況となった。発行レートについては、投資家の旺盛な運用ニーズは変わらず、多くの銘柄で0.001%割れでの出合いとなった。来週の発行市場は、週間の償還額は4,300億円程度となっている。五・十日発行が予定されるが、週間を通じては新規案件が膨らまず閑散な商状となる見込み。発行レートは、投資家の運用ニーズが相変わらず強く、概ね横這い推移と思われる。6日に、CP等買入オペが3,500億円程度オファーされる予定。

<TDB>

1日に国庫短期証券3M第686回債の入札が行われ、最高落札レートは△0.1162%(前回債△0.1182%)、平均落札レートは△0.1218%(同△0.1206%)と前回債とほぼ水準の結果となった。週末のセカンダリー市場では△0.117%の出合が見られた。6M、1Yは出合は見られていない。来週は7日に6M、8日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

月末取引となる週初の足許GCは、S/Nで△0.10%台前半から出合いが付き始めたが、以降レートは上昇。T/Nでは△0.08%台の取引が中心となった。6月入り後は△0.07%台で推移。短国3Mの発行日となる5日受渡しでは、△0.06%台の出合いも見られた。週末には国債・国庫短期証券買入れオペがオファーされたが、△0.07%近辺までの小幅低下にとどまり越えた。SC取引では、10年345回債、346回債のbidが週末の国債買入れオペ以降増加。10年346回債については△0.10%台前半~半ばで多く取引された。他2年373・374回債、5年130・131回債、10年334・335・345回債、20年160回債、30年52・53・54回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。